

8月20日～25日、LABO③の生徒がカンボジアで研修を行っています。滞在中は、カンボジアで活躍している日本人起業家や現地の青少年との交流を通して、「海外で活躍する女性リーダー」についての研究を深めます。またアジアの一員として、カンボジアや東南アジアの歴史や文化についても学習します。

8月20日(土) カンボジア・プノンペンに到着しました！



[成田空港にて]

8/20(土) 成田空港からプノンペンへ

本日、成田からバンコクを経由し、プノンペンに到着しました。飛行機のメカニクトラブルの影響で大幅な遅れが出て、生徒たちは少し疲れていますが、明日からの活動を楽しみにしています。

8月21日(日)午前 カンボジアの歴史を学ぶ



[トゥールスレン虐殺犯罪博物館]



[チェンエク大量虐殺センター]

歴史を物語る跡地の見学

到着の翌日は、カンボジアを知るには避けて通れない、ポルポト政権時代の悲惨な跡地、トゥールスレン虐殺犯罪博物館とチェンエク大量虐殺センターを見学しました。ポルポト政権下で行われた虐殺の犠牲者の数は100万人以上とされています。キリングフィールドと呼ばれるトゥールスレン虐殺犯罪博物館では、被害者の衣服や骨、虐殺に使われた道具など、辛く悲しい展示の連続でしたが、生徒たちは「目をそらしてはいけないうこと」だと自分に言い聞かせ、一つひとつ確かめながら見学をしました。

とても衝撃的なプログラムでしたが、それでも生徒たちは「見学をしてよかった」と語りました。



国立博物館の見学

国立博物館を訪れ、ガイドさんの説明を聞きながら、クメール時代の石像や石板、木製品などを見学しました。クメール王朝は12世紀から13世紀にかけて最盛期をむかえ、タイ東北部からラオス、ベトナムの南部にまで勢力圏を拡大しました。この博物館には、アンコール遺跡から発見された彫刻を中心に、6世紀から15世紀までの彫刻、漆器、青銅器、陶磁器、木彫りなど5,000点以上が展示されているそうです。クメール芸術や仏像の様式が時代によって変わっていく様子を目の当たりにし、カンボジアの豊かな歴史や文化について学ぶことができました。



[赤いクメール様式の建物が印象的な国立博物館]

8月21日(日)午後 カンボジアの学生との交流会



プノンペン大学の学生と語り合う

夕方からはプノンペン大学 日本語学科の学生4名の方との交流会と夕食会を行いました。最初こそ緊張していましたが、日本語と英語で自己紹介を行い、質問をし合ったり、日本の文化や日本語を教えたりすることですっかり打ち解けました。夢にむかって真摯に勉学に励むカンボジアの青年たちの姿にとっても刺激を受けました。学生のうち2名の方は秋から日本への留学を予定しているとのことで、今後も交流を続けていくことを約束しました。



[プノンペン大学の学生たちと]

研修二日目は、午前中に歴史の暗い部分を肌で感じ、午後は未来を夢みて頑張る青年の姿に心を動かされた一日となりました。暑さや夕方のスコールなど、雨季のカンボジアを味わう体験もできました。

明日からはいよいよカンボジアで活躍する日本人の起業家の方たちと面談を行う予定です。「海外で活躍する女性リーダー」についての研究を深め、たくさんの方のことを吸収したいと思います。